

令和6年度



唐桑中学校

校長室だより No.1

令和6年4月20日発行

# 二 星



学校 HP はコチラ

## 1 はじめに

# Colorful 唐桑中100% (Full Power)

### KARA-FULL 【教職員】

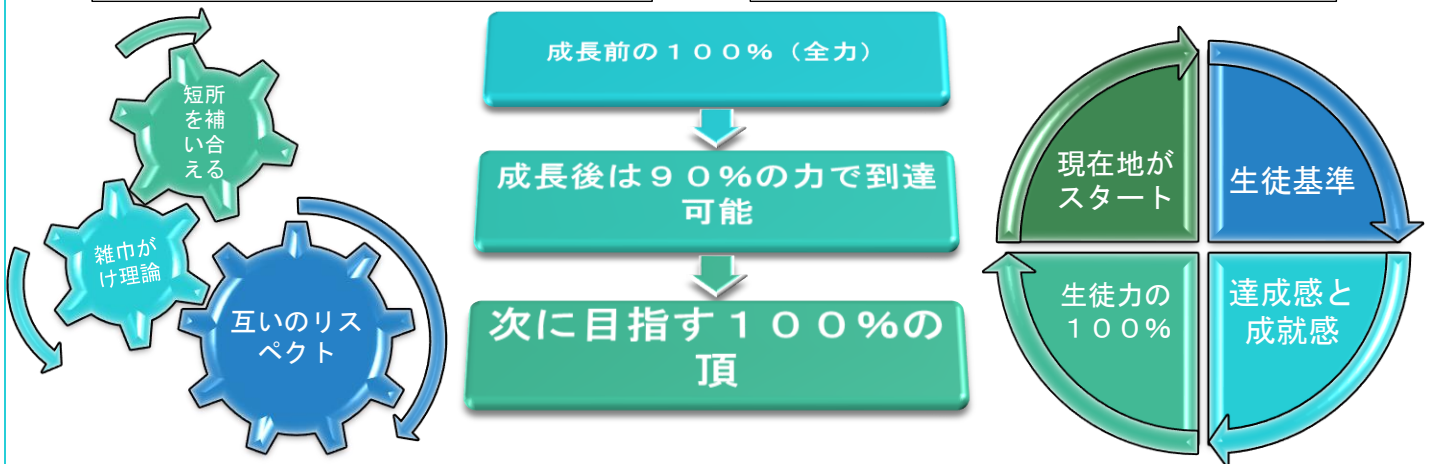
唐桑中職員の長所を100%発揮したい

- ・互いをリスペクトする関係の維持
- ・短所を補い合える関係の構築
- ・雑巾がけ理論 (少しずつの心遣い)
- ・生徒登校から下校まで「100%」

### KARA-FULL 【生徒】

一人一人の伸びしろを100%伸ばしたい

- ・指導・支援は常に「現在地」スタート
- ・行事と活動は教師基準→生徒基準
- ・自分たちが企画→実践 → 達成感
- ・学校生活を精一杯取り組む「100%」



## 2 「生徒を主語」とする学校経営

【保護者の皆様と先生方と共有できれば幸いです！】

### ① 求めたいこと

「見つめるべき」は「現在の子供の姿」……………【自己受容】 安心感・居心地の良さ・課題意識

「求めるべき」は「現在の子供の姿から1歩前進した姿」……………【向上心】 意欲・活力・自己有用感

「目指すべき」は「『将来の社会的自立』と『未来の笑顔』」…【レジリエンス】 失敗から成功体験 (しなやかで柔軟な姿勢)

### ② 意識したいこと

- ・ 困難を乗り越えて育つ **強くしなやかな心**
- ・ 失敗を経験したから味わえる **成功**
- ・ 真剣に取り組んで初めて分かる自分の **限界**
- ・ 誠意があって初めて伝わる **謝意・感謝**
- ・ 相手の心を思いやり、たどり着く **大人への道**

困難  
失敗  
真剣  
誠意  
相手

自己  
理解

自己肯定感を持てる  
豊かな人生への歩み

③ 避けたいこと

「子供がつまづくべき石を大人が取り除く」……………痛みが分からず、困難に立ち向かえない人間に  
 「自分で立ち上がるべき場面で大人が手を伸ばす」……他者に依存し自分で課題を解決できない人間に  
 「自分の力では立ち上がれないのに大人が放っておく」……無力感が募り、他者を信じられない人間に

3 「和をもって貴しと為す」

**昭和～平成** 10%が楽しく、90%が楽しくない思いをする集団（少数の勝者と多くの敗者）  
 私は正しい VS あなたは正しくない **私が勝ち、あなたは負け**

**令和～** 互いの歩み寄りによって100%が納得し合える集団（勝者も敗者もない社会）  
 私はこう考える & あなたはそう考える **私もあなたも共に正しい**

**ではどうするか ⇒ 納得解を求め、相手を認め合う社会**

**昭和～平成** 「明日やろうは馬鹿野郎」 → エンドレス学校&やり甲斐搾取&終わるまで終わらない

**令和～** 「今ある場所で咲きなさい」 → 活動時間に上限&個々に応じた支援&個々に応じた目標

**ではどうするか ⇒ 公私の調和と達成感・満足感の担保**

4 「年間を見通した『学習計画』」 【類を見ない気仙沼市の手厚い支援を活用ください】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間計画	標準学力テスト ①	実力テスト ②③ 英検(有志)※		定期テスト ④	実力テスト ⑤ 漢字検定(有志)		英検(有志)	定期テスト ⑥	標準学力テスト ⑦	実力テスト ⑧ 英検(有志)	定期テスト ⑨	

- その日のうちにキュビナ（AIドリル）を活用して復習する。書いて覚える（ノートは頭の運動場）。
- 出題範囲を意図して学習計画を立案し、実践と反省に基づいて日々の自主学習を進める。  
 ※学校行事とのバランスを踏まえつつ月単位で家庭学習の目標を次のテストに向けて設定できるよう配慮しました。
- 進路に対する目標を掲げ、実現に向けて努力する（絶対に「唐中の順位」を目標に設定しない）。
- 英検や漢検は自己肯定感を高めるチャンスです。積極的に挑戦してほしいです。

**家庭学習がとても重要です**

学校の授業は、「分かった」「できた」と実感させ、成就感を味わわせるために、順序立てて説明し、課題に取り組ませます。

そこで、多くの生徒は「分かった」「できた」と感じますが実は、「自分の力だけで解くことは難しい」ことが多いのです。

学校から帰った後の復習がなければその日習った内容は身に付きにくく、実力は伸びません。

学校で



「分かった!できた!」

標準的な学力の生徒に  
 授業内容を定着させるには  
 中1では1日2時間の復習が  
 必要だと言われます。

家でも



「できた!」

学校を「調理教室」に例えると

学校は「作り方」を習う場所  
 「上手に作れた。」



習っただけではレパートリーに  
 ならないのは当たり前



- ★ 家に帰って作ってみる
- ★ 何度も何度も作る



**レパートリー（実力）**

## 5 単純ではない現代の子育ての悩みに

### (1) 週に1回、**スクールカウンセラー**が来校しています。

#### 【スクールカウンセラーが導入された背景】

情報を瞬時に交流できる社会の中にあって、児童虐待、貧困、不登校、いじめや暴力行為等の問題等、子供達が抱える不安や苦しみがどんどん表面化しています。また、価値観が多様化した現在、保護者の皆様の悩みも、解決が難しい問題が増えています。

生徒が抱える課題の解決に向け、学校の教育相談体制の充実が求められていますが、多岐にわたり、しかも複雑化している課題への対応は、学校の教員だけでは困難です。そこで、個から集団・組織まで視野に入れた心理的な支援を行える、専門性を持つスクールカウンセラーが、今の学校には必要なのです。

**来校日は毎週木曜日。まずは学校にお電話を（職員室と離れた相談室でSCと面談を行えます）**

### (2) いじめへの対応をご理解ください。

いじめの定義（文科省「いじめの問題に対する施策」より抜粋）

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。これらについては、教育的な配慮や被害者の意向への配慮のうえで、早期に警察に相談・通報の上、警察と連携した対応を取ることが必要である

この定義に則り、本校でも「生徒が心身の苦痛を感じている」と被害を訴えた状況であれば、加害生徒に悪意がなくても「いじめ」として対応しています。

保護者の皆様にご理解いただきたいのは「心身の苦痛の感じ方は人によって異なる」ということです。

例えば私たちも、古傷を少し触れられただけで激痛が走ったり、癒えていない深い切り傷は、軽くこすられただけで血が吹き出したりすることがあります。体の傷は目に見え、痛みも表情に出やすいため、加害側も、自分の行為に悪気がなくても誠意ある謝罪をしやすいものです。

心の傷の場合、見た目では分かりません。心の痛みから逃れようと、笑ってごまかす場合もあります。

もし、心の中に、辛く苦しい記憶を抱えていたり、他者の気持ちを汲み取れるくらい心が成長できていれば、その辛さも理解できるようになります。が、まだそのような経験が浅かったり、痛みを感じたことのない人間、自分のことしか考えられない人間にとっては理解できないことが多いのです。社会に出て、暴力や暴言に手を染めたり、相手を踏みこむ人たちの多くも、このような段階なのだと思います。現在の世の中で、「～ハラメント」という言葉が流布しているのも、時代の価値観が大きく変容している現れだと考えています。人権を侵害することは、これからの世の中では絶対に許されないことなのでしょう。

ですから、私たちは「いじめを絶対に見逃してはならない」という覚悟をもって子供たちの成長を見守っていきます。そして、「いじめはいつ、どこでも、だれにでも起こりうる」「だれもが被害者になるし、だれもが加害者になる」とも考えています。

幼少の頃から多くが同じ集団で生活してきた子供たちです。

これまでのストレスが溜まりに溜まり、中学生になって我慢できなくなる状況も十分に予想されます。また、人間関係や自分自身のこと、家庭環境のことなどで傷つき、悩んでいるところに、最後に受けた友人の一言が引き金となり、心が潰れそうになる苦しさで、その言葉をいじめとして受け止めざるを得ないこともあります。

いじめ問題の解決・解消は容易ではありません。その対応に向けては、保護者の皆様のご理解とご協力が欠かせません。

もし、そのような相談をさせていただいた折には、加害・被害にかかわらず、「お子さまの心の成長のために」ご理解いただき、ともに解決に向かう前向きな姿勢をもってご協力くださいますようお願い申し上げます。

皆様に知っていただきたい番号があります

◎24時間子供SOSダイヤル  
0120-0-78310  
◎児童虐待かと思ったら  
189  
◎子どもの人権110番  
0120-007-110

## 「令和6年度の職員室」

これまでの経験上、「問題のない学校は絶対はない。」と先生方に話しています。また、「問題が起きたら、責任転嫁をせず前向きに、『ではどうするか』を考えましょう。」とお願いをしています。

生徒は、それぞれが日々成長過程にあります。毎日いろいろなことに挑戦し、様々なことと出会いながら生活しているのですから、一人一人に課題があり、悩みがある、と考えるのが当たり前です。

昨年度までも、「生徒のために」と精力的に仕事に向かってくれた唐桑中の先生方ですが、令和6年度が始まってからも（4月1日から）、先生方には感謝ばかりの毎日です。

始業式前から、生徒や保護者の皆様からたくさんの相談がありました。先生方はその話を真摯に受け止め、誠意をもって対応策を考えてくれています。今も毎日、学校には保護者から相談があるのですが、そのひとつひとつに誠実に対応し、解決・解消のために学年の枠を超え、「どうすれば良いか」の話し合いを繰り返しています。

ある日、その話し合いの結果を報告されたときのこと。私が「こうしてはどうだろう。」と意見と対応策を述べたあと、先生方は職員室に戻りました。しばらくすると、主任の先生が再び校長室へ。その後再び担当で話し合った様子で、「校長先生、先ほどの件ですが、保護者や子供のことを考えると、こうした方が良いのではないかと話し合いました。いかがでしょうか。」とさらに良い考えを述べてくれました。

指示されたことをやれば良いとか、決まったとおりにすれば良いといった「Yes-man(イエスマン)」ではなく、「子供たちのためにどうすれば良いか。もっと良い手立てはないか。」を常に考えてくれます。そのとき、私は先生方の対応に感動してしまいました。

また、昨日のことです。午前中に開校記念集会を行いました。その直前、教務主任と視聴覚担当に「このあとの集会でプロジェクターを準備してほしいのだけれども……。」と急なお願いをすると、自分の仕事があったにもかかわらず、すぐに準備してくれました。また集会が始まると、担当ではなくとも、整列の指示を出す先生がいました。さらには、集会で使った画像の最後、「羅針は光れり」がステージに映っているからと、校歌斉唱を校歌の2番に変更してくれる先生がいました。

現在、学校の課題はどんどん複雑化しています。我々も発展途上で、まだまだ勉強中です。これから失敗もあるはずですし、保護者の皆様のご期待に添えないこともあるはずですが、しかし今現在、「子供たちの未来のために」「ではどうするか」を考えながら仕事をしてくれる先生方を誇りに感じています。

令和6年度も、これまで同様のご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。